

学校法人久留米大学 個人情報の保護に関する規程

〔平成17年3月28日〕
規程 第16 - 7号

（目的）

第1条 この規程は、学校法人久留米大学及びその設置する大学院、大学、附設高・中校、病院等（以下「本学」という。）が保有する個人情報の取扱いに関し、その収集、保管、利用について必要事項を定め、本学の責務を明確にするとともに、個人情報の適切な保護に資することを目的とする。

2 部門別の個人情報の管理等に関する規程（以下「個別規程」という。）は、別に定める。

（定義）

第2条 個人情報とは、次に掲げる者及びそれに関係する情報で、生存する特定の個人が識別され又は識別され得るもののうち、本学が業務上取得又は作成した全ての情報をいう。

(1) 本学が雇用する全ての教職員（非常勤者及び派遣、委託者を含む。以下「教職員」という。）及び本学の学生、生徒等（以下「学生生徒等」という。）並びに受診者

(2) 教職員及び学生生徒等並びに受診者であった者

(3) 本学の教職員及び学生生徒等になろうとした者

(4) 前3号に定める者の父母、家族、親族及び保証人等

2 前項に定める個人情報については、当該個人に帰属する情報の他、当該個人に付与された番号、記号、画像若しくは音声等により当該個人を識別又は他の情報と照合することによって識別できるものを含むものとする。

3 第1項に定める個人情報については、紙に記入若しくは印刷された情報の他、コンピュータ、光学式処理装置等により処理又は保存されているものを含むものとする。

4 個人情報の対象者及び保護の対象とする個人情報の項目については、個別規程により別に定めるものとする。

（個人情報保護の適用除外）

第3条 個人情報の保護に関し、次に掲げる場合は、本規程を適用しない。

(1) 出版物又は既に報道された個人情報（特定の対象者に対して配付又は頒布したものを除く。）

(2) 法令等により、公にすることが必要な個人情報

（本学の責務）

第4条 本学は、個人情報の収集、保管又は利用にあたり、個人の基本的人権を尊重し、個人情報の保護を図るため、次の各号に掲げる措置を講ずるものとする。

(1) 個人情報を提供する者への周知及び公開

(2) 教職員に対する本規程及び関連諸規程の遵守並びに教育、指導

- (3) 学生生徒等に対する個人情報保護にかかる教育、指導
- (4) その他、本学が必要と認めた措置
(個人の責務)

第5条 教職員、学生生徒等は、本規程及び関連諸規程を遵守し、個人情報の保護に努めなければならない。

2 前項の定めについて、職務等で知り得た個人情報を収集目的以外に流用、第三者に漏えい又は流失してはならない。

3 教職員、学生生徒等の本学の構成員であった者は、過去の在籍中に知り得た個人情報を第三者に漏えい又は流失してはならない。

(個人情報保護委員会)

第6条 本学は、本規程の目的を達成するため、学校法人久留米大学個人情報保護委員会(以下「委員会」という。)を置く。

2 委員会の規程については、別に定める。

(個人情報管理者)

第7条 本学は、本規程の目的を達成するため、総括管理者及び個人情報管理者を置く。

2 前項に定める総括管理者は学長とし、個人情報管理者(以下「管理者」という。)は、学部長、看護学科長、研究科長(法科大学院長を含む。)、留学生別科長及び大学付置の研究所長、センター所長並びに病院長、事務局長その他総括管理者が指名する者とする。ただし、管理者は当該事業の目的達成のため必要と認められる場合は、管理権限の一部を委任することができる。

3 管理者は、所管する業務の範囲における個人情報の収集、保管及び管理並びに個人情報提供者本人からの開示、訂正又は削除の請求に関し、本規程及び関連諸規程の定めに基づき適切に処理しなければならない。

4 管理者は、個人情報の取扱いに関し、委員会の助言、指導又は勧告があったときは、すみやかに是正その他必要な措置を講じなければならない。

(収集の制限及び方法)

第8条 個人情報は、本学の教育、研究、診療及び管理業務並びに委員会が必要と認めた範囲内において収集するものとする。

2 個人情報は、本人から適正かつ公正な手段によって収集されなければならない。ただし、次の各号のいずれかに該当するときは、本人以外から収集することができる。

- (1) 本人の同意があるとき
- (2) 法令の規定に基づくとき
- (3) 出版、報道等により公にされているとき
- (4) 個人の生命、身体の安全又は財産の保護のため、緊急かつやむを得ないと認められるとき

3 本人からの個人情報の収集にあたっては、原則として、次の事項について明らかにし、本人の同意を得なければならない。

- (1) 収集の目的

- (2) 用途
- (3) 保有期間
- (4) 問合せ部署及び連絡先

4 個人情報の収集は、思想、信条及び宗教に関する事項並びに社会的差別の原因となる事項を調査することを目的として行ってはならない。ただし、第2項各号のいずれかに該当するときは、この限りではない。

(本人の同意の方法)

第9条 本人の同意の方法については、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 個人情報を記載する紙媒体又は電子媒体に、前条第3項に掲げる事項を明記した上で本人が個人情報を提供した場合は、同意したものとする。
- (2) インターネットを経由して大学ホームページ等から個人情報を収集する場合は、前条第3項に掲げる事項を明記した上で本人が個人情報を提供した場合は、同意したものとする。
- (3) 本人の同意の方法については、前2号の定めを原則とするが、本人の意思により、前2号の定めによらず口頭及び電話等での情報提供がなされた場合は、本人が同意したものとみなす。

(本人の同意の適用除外)

第10条 次に掲げる各号に該当する場合は、第8条第3項の定めにかかわらず、本人の同意を要しないものとする。

- (1) 学生生徒等にあつては、学則に規定されるものの他、教育研究上又は在籍する学校から便宜又は利益を得るために必要な手続等のために提供する個人情報
- (2) 教職員にあつては、法令及び就業規則で規定されるものの他、事業主である本学が事業を運営するために収集する個人情報
- (3) 教職員のうち教員(医師を含む。以下「教員」という。)にあつては、教員が専ら本人に対する教育的活動又は診療活動を遂行するために本人から収集し、本人の利益を不当に侵害しないと認められる個人情報

(利用及び提供の制限)

第11条 管理者は、個人情報を収集した目的以外のために利用又は提供してはならない。ただし、次の各号のいずれかに該当するときは、この限りでない。

- (1) 本人の同意があるとき
- (2) 法令の規定に基づくとき
- (3) その他、委員会が正当と認めたとき

(適正管理)

第12条 管理者は、個人情報の安全保護及び正確性の維持のため、次の各号に掲げる事項について、適正な措置を講じなければならない。

- (1) 紛失、毀損、破壊その他の事故の防止
- (2) 改ざん及び漏えいの防止
- (3) 個人情報の正確性及び最新性の維持
- (4) 不要となった個人情報の廃棄又は消去

(学外への持ち出し制限)

第13条 個人情報とは、原則として学外へ持ち出してはならない。ただし、個人情報を使用する業務を学外に委託するときは、この限りではない。

2 前項の業務委託を行う場合、管理者は、委託業者との間で個人情報の保護に関する覚書を締結しなければならない。

3 第1項の定めにかかわらず、教員が授業運営にかかる資料、試験答案、論文、レポート、その他の授業運営に必要な資料で、正当な教育活動の遂行に必要な場合は、学外持ち出し制限の適用除外とすることができる。

4 前項の場合、教員を当該個人情報にかかる個人情報管理者とみなし、前2条に規定する責務を負わなければならない。ただし、次条の規定は適用しない。

(収集の届出)

第14条 本学の業務遂行上、新たに個人情報を収集するときは、管理者は、あらかじめ次の事項を委員会に届け出て承認を得なければならない。

- (1) 名称
- (2) 利用目的
- (3) 収集の対象者
- (4) 収集方法
- (5) 記録項目
- (6) 記録の形態
- (7) その他委員会が必要と認めた事項

2 前項の規定に基づき届け出た事項を変更又は廃止するときは、管理者はあらかじめこれを委員会に届け出て承認を得なければならない。

(個人情報の開示)

第15条 本人は、自己に関する個人情報の開示を請求することができる。

2 前項に規定する請求は、本人であることを明らかにし、当該開示請求に必要な事項を明記した文書を管理者に提出するものとする。

3 開示の請求があったとき、管理者はこれを開示しなければならない。ただし、その個人情報が、開示しないことが明らかに正当であると認められるときは、その個人情報の全部又は一部を開示しないことができる。

4 個人情報の全部又は一部を開示しないときは、管理者は、その理由を文書により本人に通知しなければならない。

5 管理者は、第2項による開示を求められたときは、手数料を徴収することができる。手数料の額は、別に定める。

(個人情報の開示制限)

第16条 個人情報が次に掲げるいずれかに該当する場合は、本人に対して個人情報を開示しないものとする。

- (1) 法令等の定めるところにより本人に開示することができないと認められるとき
- (2) 本人の評価、診断、判断、選考、指導、相談等に関する個人情報であって、開示することにより、教育、研究、診療又は事務業務の適正な運営に支障が生ずるおそれがあるとき

- (3) 捜査、取締り、調査、争訟等に関する個人情報であって、開示することにより、事務業務の適正な執行に支障が生ずるおそれがあるとき
- (4) 開示することにより、第三者の権利利益を侵害するおそれがあるとき
- (5) その他、委員会で開示が適当でない判断したとき
(個人情報の訂正、追加又は削除)

第17条 本人は、自己に関する個人情報の記録に誤りがあるときは、第15条第2項に定める手続に準じて、管理者に対し、その訂正、追加又は削除を請求することができる。

- 2 管理者は、前項の規定による請求を受けたときは、すみやかに調査のうえ、必要な措置を講じ、結果を本人に通知しなければならない。ただし、訂正、追加又は削除に応じないときは、その理由を文書により本人に通知しなければならない。
(個人情報の利用の停止又は消去)

第18条 本人は、自己に関する個人情報の記録が、第8条の規定に違反して収集されたと認めたととき又は第11条の規定に違反して取り扱われていると認めたとときは、第15条第2項に定める手続に準じて、管理者に対し、その利用の停止又は消去を請求することができる。

- 2 管理者は、前項の規定による請求を受けたときは、すみやかに調査のうえ、必要な措置を講じ、結果を本人に通知しなければならない。ただし、利用の停止又は消去に応じないときは、その理由を文書により本人に通知しなければならない。
(不服の申立て)

第19条 第15条、第17条及び第18条に規定する自己に関する個人情報の開示、訂正、追加及び削除並びに利用の停止及び消去の請求に基づいてなされた措置に不服がある者は、本人であることを明らかにして、委員会に対し、不服の申立てを行うことができる。ただし、不服申立て事項が同一の内容の場合、再度の申立てはできない。

- 2 委員会は、前項の規定による不服申立てを受けたときは、すみやかに審議、決定し、その結果を文書により本人に通知しなければならない。
- 3 委員会は、必要があると認めるときには、本人又は管理者に対し意見の聴取を行うことができる。
(相談窓口)

第20条 管理者は、苦情相談窓口を設置し、個人情報の円滑な運用に努めなければならない。
(処分)

第21条 本規程及び関連諸規程を遵守せず、個人情報の保護を怠ったとき、本学は、次の各号に掲げる処分を行う。

- (1) 職務等で知り得た個人情報を収集目的以外に流用、第三者に漏えい又は流失した場合は、教職員にあっては学校法人久留米大学教職員就業規則その他の服務規程等に基づき懲戒処分に付し、学生生徒等にあっては各学則に基づき処分する。
- (2) 教職員、学生生徒等の本学の構成員であった者が、過去の在籍中に知り得た

個人情報第三者に漏えい又は流失により、本学に損害を与えた場合は、然るべき対応又は法的処置をとるものとする。

附 則

- 1 . この規程は、平成17年4月1日から施行する。
- 2 . この規程は、施行日から2年以内に見直すものとする。